

安全作業の徹底強化 『KYTと指差呼称』

朝会社に出勤して今日も一日ガンバルぞと思いている人はかなりいると思いますが、怪我をするかも知れないので注意して働こう、又はガンバろうと思う人は少ないかも知れません。「怪我」と言う字は【**我を怪しむ**】、すなわち自分の行動が本当に安全かと常に自己反省することだと思います。安全作業をするために会社等では安全規則や安全心得、安全作業手順等、様々なルールを決めていることだと思います。でも大切なのはこのルールが守られているかどうか、又ルールを守らせることを管理監督者が命がけでやっているかどうかであると思います。怪我の原因を見ますとその多くはルールを守っていなかった事に起因するものがほとんどです。安全作業を確保するためにはルールを守ると共に“**自分の部下は絶対怪我をさせないぞ**”という管理監督者の強い意志が必要です。その一つの道具として、危険を**予知**すること、危険を**予測**すること、危険を**予見**することが必要となってきます。すなわち危険予知(KYT)運動が重要になってくるのです。また、危険予知活動の中には『指差呼称』と言った方法があります。この方法について少し説明しましょう。

1. 「指差呼称」とは

作業を安全に誤りなく進めていくためには、作業行動の要所要所で自分の確認すべき行動を、『〇〇 〇〇 ヨシ!』と対象物に腕を伸ばしてしっかり指差し、大きな声で呼称して確認することを『指差呼称』と言う。もともと日本国有鉄道で創始された日本オリジナルの安全確認法です。

2. 「指差呼称」の方法

指差呼称は通常、

- ① **目**は……確認すべき対象を、しっかりと目で見て、
- ② **口**は……大きな声で『〇〇 ヨシ!』『スイッチ・オン ヨシ!』『バルブ開 ヨシ!』『圧力〇キロ ヨシ!』等と唱える。
- ③ **耳**は……自分の声を聞く。
- ④ **腕・指**は……左手は横から腰にあてる。右腕を伸ばし、右手人差し指で対象物を差す。『〇〇』でいったん耳元まで振り上げて『ヨシ!』で振り下ろす。

目、口、耳、腕、指などを総動員して、自分の作業行動の正確性・安全性を確認します。皆さんの職場でも、是非やってみましょう。効果は大です。

その他にも安全作業の徹底強化には、毎日作業中にあったヒヤリ・ハットをミーティングで報告し、それを働く仲間にも水平展開する方法があります。同様のヒヤリ・ハットを減らして行き管理監督者がその不安全個所を改善して行く、という方法です。これも大変効果があります。

以上、安全作業の徹底強化についてKYT、指差呼称の説明をしましたが、

“怪我のない、明るい職場が確保できるよう皆で実行して行きましょう！”